

※ 今週のアウトルック (7/4~7/8)

先週は週足として、ドル円はかろうじて上昇、クロス円は大きく下落した通貨ペアも多くありました。

円安、ドル高トレンドの変化と考えるのはまだ早いように思いますが、長めの調整期に入った可能性はあるように思います。

今週も、サポートラインやレジスタンスラインを意識するより、米国長期債利回りの動向や要人発言、経済指標に振り回される可能性が高そうです。

先週のドル円は、水曜日に一度 137 円台をつけてその後 135 円台前半まで失速しました。経済指標の悪化や、米国長期債の利回り低下などが原因のようです。

今週は、週末に米国雇用統計の発表を控え、動きにくい展開となりそうです。雇用統計の発表の結果、景気のリセッションが明確となった場合、

ドルが一気に下落する可能性もあるように思います。

ドル円の予想レンジは 130 円から 140 円です。

先週のユーロ円は、一度 144 円台まで上昇しましたが週末にかけて下落し、141 円付近で終了しています。

円高の影響もありますが、ユーロドルが再び 1.03 付近のサポート割れを目指している可能性があることが気になります。

今週のユーロ円は、138 円から 140 円付近のサポートラインを守れるかどうかのポイントとなりそうです。

更にはユーロドルが 1.03 付近のサポートを割り込んでしまった場合には、急落の可能性も考慮する必要がありそうです。

ユーロ円の予想レンジは 135 円から 146 円です。

ポンド円も本格的な調整局面に入ってきているようです。160 円から 168 円付近までのレンジでしばらく推移する可能性強まっています。

ポンド円の予想レンジは 160 円から 168 円です。

金利差から景気の動向に市場の関心が変わってきています。米国雇用統計の悪化で、市場心理が冷え込んだ場合、ドル高円安トレンドも一気に変わる可能性もありますので注意が必要です。

*免責事項*当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。